

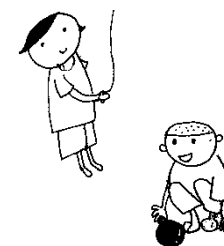


多世代がつながる 居場所としてのプレイパーク



特定非営利活動法人たねの会

代表理事(プレイワーカー) 佐藤美和



さいたま市子ども家庭総合センター（あいぱれっと）内
「冒険はらっぱ」運営業務統括責任者

「冒険遊び場」ってなに？

(プレイパーク)

そこにある道具や廃材・自然素材を使って、子どもたち自身で好きなように遊びをつくりだすことができ、だれでも遊べ、そして遊びを見守る大人がいる野外の遊び場のこと。

1943年デンマークにつくられた「エンドラップ廃材遊び場」が起源。日本では1974年世田谷区「羽根木プレーパーク」誕生し、現在400以上の団体がそれぞれ活動に取り組んでいる。



NPO法人日本冒険遊び場づくり協会HPより

たねの会の遊び場づくり

2003年 発起人2人が出会い、任意団体「さいたま冒険遊び・たねの会」発足

2004～2005年 「ミニプレーパーク」を市内の公園やキャンプ場などで開催

2006年 「さいたま冒険遊び場・たねの会」に改名

『冒険遊び場づくり講習会』開催（冒険遊び場 2 days in 別所沼公園開催）

2007年 「別所沼プレーパーク」定期開催スタート（月1回・自主開催）

2009年 『子どもに関わる仕事をめざす若者のための体験講座』開催（全3回）

「さいたま市市民提案型協働モデル事業

～協働による冒険遊び場づくりモデル事業」受託

2010年 別所沼プレーパークがさいたま市の委託事業となる（月2回）

『広がれ！冒険遊び場づくり事業』開始（岩槻区、大宮区、緑区で展開）

2012年 「さいたま冒険遊び場・たねの会 大宮プレーパーク実行委員会」発足

2015年 活動の広がりにより、活動場所ごとに会を分けることに決定（移行期間1年）

2016年 「さいたま冒険遊び場・たねの会」から「あそびの森」「大宮プレーパーク・ねっこの会」がそれぞれ独立
「特定非営利活動法人たねの会」設立

2018年 「冒険はらっぱ運営業務」受託（現在4年目）



さいたま市子ども家庭総合センター（あいぱれっと） 屋外

（京浜東北線与野駅徒歩 7 分）



冒険はらっぱプレイパーク



2018年4月オープン。「子ども・家庭をとりまく課題に総合的に取り組み、子ども・家庭、地域の子育て機能を支援する、さいたま市らしさを活かした施設」とされています

あいぱれっと 1 階



冒険はらっぱプレイパーク 全体図



プレイパークの基本



自由に使える素材や道具・遊具のある環境をつくり、
子どもたちが自分の実感・選択で発展させたり変更を加えたりして自由に遊べるようにしている。

プレイリーダー(プレイワーカー)

子どもたちが自由に遊べる環境づくりを行う専門職。遊び場づくりを通して、子どもの育ちを見守りあうことのできるまちづくりの実現を目指す。



常勤 2 名 / 非常勤 2 名 / 臨時PW 6 名
平日 3 名 / 日曜祝日 4 名

あいぱれっとの特徴

ワンストップでの相談・遊ぶ場と相談できる場の一体化・多職種連携による支援の実現

1F ●市民コンタクトスクエア

2F ●児童相談所（北部・南部）

3F ●子どもケアホーム ●あいぱれっと教育相談室 ●相談室エリア

4F ●総合相談機関総合事務室

児童相談所（北部・南部）・こころの健康センター・総合教育相談室・

子ども家庭支援課・男女共同参画相談室

●相談室エリア

屋外 ●冒険はらっぱプレイパーク

自分の責任で自由に遊ぶことを基本とし、プログラムや禁止事項をなるべくつくり、子どもたちが思い思いに遊ぶことができるプレイパークを常設し、遊びを通して自己の発見や成長を促す場とする。

また、地域住民の交流・憩いの場として、子どもたちと大人・高齢者がふれあい、知識や文化を継承していける場とする。

（相談機関を補完する場としての役割も担っている）

0歳～100歳まで

「だれでも遊びにきてね」



地域に住むいろいろな人たちが出会い、つながることのできる場に。様々な人が共に生きていくことのできる関係を築くことが、子どもたちが安心して過ごせる社会につながるのではないかな。

子育て支援の場として（親の孤立を防ぐ）

核家族化・・・子育てをする共同体が失われている

↓
親（特に母親）への負担が大
「きちんと育てなければならない」
「迷惑をかけてはならない」



親にとっても、楽しくホッとできる場に。
ここに来れば、誰かがいておしゃべりできる。
子どもから目を離しても、誰かが見ていてくれる。
子どもが楽しそうでうれしい。
他の子どもと関わってみたくなる。
➡この場だけでなく、日常的なつながりに。

特定非営利活動法人
たねの会
オンライン
対談講演会

うちの子、 このままで大丈夫??

～乳幼児期に本当に大切にしたいことは～

参加
無料

のびのびと育てたい。でも、小学校に入ってから大丈夫かな？
うちの子落ち着きないし、このままで大丈夫かな？
そんな不安ありますよね。

臨床心理士のふじパパ（藤井良隆）とプレイワーカー・どっくん（関戸博樹）の対談では、

「子どものかんしゃく、わがまま。どう声がけしたらいい？」
「がまんもさせないとだめですね？」
「子どもがお友達に手を出したり、おもちゃをとったり。
ごめんなさいが言えなくて、ママ友同士の間で肩身が狭いです」
「遊びが大切っていうけれど、遊んでいるだけだと小学校に入った
ときに困らないかと不安です…」

そんな不安や疑問にお答えしながら、乳幼児期の
子どものために本当に大切にしたいことをお聞きます。



ふじいよしとか
藤井良隆

臨床心理士。学校教育と子育てについて考えたくて大学・大学院で、教育哲学・教育社会学・反教育学などを学ぶ。子育てをする中で冒険遊び場に出会い、ありのままでいられる大きな愛に魅了される。フリースクール、教育相談室、小中高スクールカウンセラー、小児科、児童精神科クリニックなどを経て、大学病院精神科で愛着トラウマ専門外来を開く中で、冒険遊び場のまなざしの大切さを実感している。



2022年2月19日（土）
14：00～15：30
ZOOMおよびアーカイブ
（期間限定）

定員：100人

申込方法：Peatix

<https://tanenokai20220219.peatix.com>

申込締切：2月18日



せきどひろき
関戸博樹

フリーランスのプレイワーカー。冒険遊び場、児童館、保育園・幼稚園など、全国の遊び場づくりに関わり、コーディネートやスタッフ研修を行っている。また、長男を子育て中の2年間に主夫として過ごした経験を活かした親向け講座なども行っている。無類の虫好きで特にカマキリとの遭遇時はスーツを着ていても捕まえずにはられない。著書に「子どもの放課後にかかわる人のQ&A50」（学文社・共著）がある。



主催：特定非営利活動法人たねの会
<https://www.tanenokai.org/>

たねの会は、子どもたちがのびのび遊べるまちを考え、事業をおこなう特定非営利活動法人です。

子どもの居場所（SOSを発見できる場所）として



子ども自ら相談窓口に行くのは難しい。子どもの変化・声に気づき寄り添うこと、
「休む・遊ぶ」を通して元気（自信）を取り戻せるようサポートすることを大切にしている。
（必要に応じて相談機関につないだり、他の団体と連携をはかるようにしている）

【課題】

- ・話を聴いてほしい、一緒に遊んでほしい、というたくさんのニーズに応えきれていない。
- ・学校に行っていない子どもたちが来て過ごす場所としての連携・支援。
- ・相談機関に行っても解決に向かえないケースの支援。

【ほしい支援】

- ・話を聴いてくれる、遊んでくれる地域の人を増やす（肯定的なまなざし）。
- ・それぞれの団体がつながり、困っている子どもたちや親を守れるセーフティネットのような関係を築きたい。
- ・我々が困った時に相談にいけるつながり、子どもや親が困った時に行ける場所の情報がほしい。

子どもに関わる団体・個人が、立場や分野を超えてつながれる場・学び合える場

子ども食堂・フードパントリー・不登校家庭の支援
学習支援・プレイパーク・居場所づくり・子ども支援
アート・防災・パパ・就労支援・社会的養護
民生委員・児童委員・SSW・社会福祉協議会
市議会議員・研究者・民間企業
活動をはじめたい方 等

地域活動ネットワーク 「さいまーる」共同事務局

2021年7月より
奇数月 第4土曜日16時半～18時半
あいぱれっと多目的ホールにて

話題提供者からのテーマについての
グループディスカッションと自由な交流



第4回 6月22日（オンライン）
・支援が届きにくい子ども・家庭への支援について
・ヤングケアラーについて 15名



第5回 7月24日（あいぱれっと）
『不登校ってわるいこと？』&交流 15名



第6回 9月25日（オンライン）
『地域で子どもを育てるとは～子ども食堂とフード
パントリーを通してみえてきた地域の力』&交流 16名



第7回 11月27日（あいぱれっと）
『子どもの貧困を知る』&交流 22名

子ども自身が自分の人生を生きていけるような土台を



支援者はずっと子どもと一緒にいられるわけではない。自分の人生を自分で歩いていくために必要な土台となる力やつながり、価値観を培える場にしたい（自分への信頼・人への信頼）。